

2026 春の街歩き 武蔵国分寺跡周辺をぶら〜り

3月15日(日) 

今回は、西国分寺駅から国分寺駅まで、他地域支部の方2名も参加していただき、総勢9名で巡ります。まずは、7世紀後半から8世紀前半にかけて整備された、都と



地方の国府を結ぶ7つの幹線道路のひとつ、とうさんどうむさしみちあと東山道武蔵路跡を辿り、建武2年(1335)に新田義貞の寄進により建立され、のちに宝暦6年(1756)頃に現在の場所に建て替えられた国分寺薬師堂を訪ねます。

↑ 東山道武蔵路跡の碑

↓ 国分寺仁王門



↑ 国分寺薬師堂前にて

国分寺仁王門をくぐり、石段を下ると一気に広大な緑地が開け、かつてこの一帯に聖武天皇が天平13年(741)に諸国に鎮護国家を祈念して建立を命じた、国分寺と国分尼寺が建てられました。発掘調査により、金堂や講堂跡の礎石がならび往時をしのぶことができます。さながら、古都奈良の風景にも似ていると・・・

この場所が選ばれたのは、当時の武蔵国の国府、府中に近く東山道武蔵路沿いで、広大な平地と豊かな湧水に恵まれていたためと言われています。



↑ 国分寺跡一带の風景





続いて、武蔵国分寺跡資料館を訪ねる前に「史跡の駅おたカフェ」で一休み。

暖かく天気も良く、散策の人出も多く、店は大混雑！

一服して、旧本多住宅長屋門・倉を見学して資料館へ。

見学後、かつてそびえ建っていた国分寺七重の塔の縮尺模型の前で記念撮影。

ま すが た い け ゆ う す い く ん
真姿の池湧水群から、江戸時代

尾張徳川家のお鷹場に由来して名付けられ、湧水の流れに沿って続く散策道「御鷹の道」を散策して国分寺駅方面まで。

近年、湧水量が減少し水の流れが細まっているのが残念。



本日の散策のラストは、都立殿ヶ谷戸庭園。

ここ殿ヶ谷戸庭園は、三菱合資会社の社員であった江口定條により大正2年(1913)

に別荘として作られた「^{すいぎえん}隋宜園」がもとになった庭園で、現在は東京都の公園として開放されています。季節柄、少し寂しいものの園内にはミツマタやカタクリの花が咲き、崖線から湧き出す水をたたえた次郎弁天池も風情溢れる・・・



ミツマタ



カタクリ→

↓キクモモ



これにて本日の街歩きも、無事終了。
心地よくとても素敵な春の散策でした。

(報告・撮影 宮川 孝之)



本日の散策コースマップ

